

堂坂遺跡 (室町時代中期)

昭和46年(1971年)に、市立西谷中学校の運動場拡張工事の際に、古丹波の壺7個と銅銭19万枚が発見された備蓄銭埋蔵地です。

発見時、壺は一列に並べられており、壺の中には銅銭が緡(銭を通す紐)で一括して納められていました。

銅銭の種類は、日本のものはわずかで、大半が中国の北宋時代のものであるため、銅銭は日明貿易によってもたらされたものが主流であると考えられています。

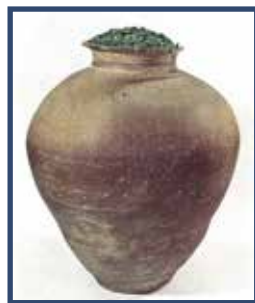
埋められた時期については、壺や播鉢の年代から室町時代中期(15世紀中頃)と推定されています。

これだけ大量の古銭を、誰が何のために埋めたのかは分かっていませんが、埋められていた場所が宝山寺の旧境内地であることから、このお寺に関係していると考えられています。

(※堂坂遺跡の壺と古銭は、市立小浜宿資料館で常設展示しています。)



壺が出土した際の様子



7号壺

どうさかくんメモ

江戸時代の遺跡を紹介するドウ!

小浜5丁目に「小浜遺跡」という中・近世の遺跡があるドウ。小浜は、室町時代に建てられた「毫掇寺」を中心に「寺内町」として成立した町で、江戸時代になると、「西宮街道」・「有馬街道」・「京・伏見街道」が交差する重要な地点であったことから、「宿場町」として栄えたドウ。現在も、当時の面影がある町並みが一部で残っているドウ。

小浜地域を紹介している「市立小浜宿資料館」では、小浜の町並みを再現した見ごたえあるジオラマを展示しているドウ!

